

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2008年第16週  
(4月14日～4月20日)

- \* 2008年4月23日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は月報告(2008年3月)の疾患及び感染症豆知識  
「薬剤耐性緑膿菌感染症」も掲載しています。

平成20(2008)年4月24日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会  
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話 : 03-3363-3213(直通)  
FAX : 03-5332-7365  
e-mail : idsc@tokyo-eiken.go.jp

## 全数把握対象疾患 報告数 2008年16週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		13週	14週	15週	16週	年累計	16週	年累計
一 類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二 類	急性灰白髄炎							1
	結核	80	60	61	48	1085	247	6763
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
三 類	コレラ			1	1	2	4	16
	細菌性赤痢	1			1	18	2	83
	腸管出血性大腸菌感染症	1		2	1	15	13	293
	腸チフス				1	4	1	14
	パラチフス			1		2		7
四 類	E型肝炎			1		3		15
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎				1	10	1	55
	エキノкокクス症							5
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							1
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					4	2	43
	デング熱	2	1			6	2	18
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							2
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1		1		6		11
野兔病							2	
ライム病							1	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	1	1	2	2	21	7	221	
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		13週	14週	15週	16週	年累計	16週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	4	5	4	5	53	14	246
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		1		1	9	2	61
	急性脳炎 **					5		72
	クリプトスポリジウム症			1	1	2	1	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1	1	4	1	42
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4				10	1	38
	後天性免疫不全症候群	9	11	11	13	170	16	406
	ジアルジア症	1	1	1	2	9	3	27
	髄膜炎菌性髄膜炎							5
	先天性風しん症候群							
	梅毒	4	3	4	4	53	8	209
	破傷風					2	2	17
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				1	1		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1				3	2	25
風しん	2		2	2	17	9	135	
麻しん	52	44	42	31	723	259	6185	
指定	インフルエンザ (H5N1)							
2008/4/23集計								

\* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*\* ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

### (全数把握対象疾患のコメント)

#### 〈二類感染症〉

**結核 48件** 肺結核33件、その他15件で、推定感染地は国内47件、フィリピン1件。年齢は5歳未満1件、20歳代6件、30歳代5件、40歳代4件、50歳代5件、60歳代5件、70歳代11件、80歳代9件、90歳代2件であった。

#### 〈三類感染症〉

**コレラ 1件** O1エルトル小川型で、埼玉県内の飲食店で起きたコレラ食中毒との関連が疑われている。他に第15週該当の届出が1件あり(報告漏れ)、O1小川型だが、埼玉県内飲食店との関連は不明である。  
**細菌性赤痢 1件** 菌種不明で、ネパールでの感染が疑われている。  
**腸管出血性大腸菌感染症 1件** 有症者で、血清型・毒素型はO157(VT1VT2)、年齢は20歳代であった。  
**腸チフス 1件** 推定感染地はインドであった。

#### 〈四類感染症〉

**A型肝炎 1件** 推定感染地は国内で、感染経路は不明であった。  
**レジオネラ症 2件** ともに肺炎型で、患者は60歳代と80歳代の、いずれも女性。ともに推定感染地は都内で、1件では自宅水槽との関連が疑われており、他の1件の感染経路は不明。

#### 〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 5件** 腸管アメーバ症3件、腸管外アメーバ症2件で、推定感染地は国内3件、タイ1件、ペルー1件、推定感染経路は性的接触3件(同性間1件、異性間1件、性別不明1件)飲食物による経口感染1件、不明1件であった。  
**ウイルス性肝炎 1件** B型で、推定感染地は国内、感染経路は不明であった。  
**クリプトスポリジウム症 1件** 推定感染地はインドであった。  
**クロイツフェルト・ヤコブ病 1件** 孤発性プリオン病古典型CJDで、患者は50歳代であった。  
**後天性免疫不全症候群 13件** 無症候キャリア8件、AIDS3件、その他2件で、推定感染地は国内10件、ロシア1件、ウガンダ1件、不明1件、推定感染経路は性的接触11件(同性間9件、異性間2件)、不明2件であった。  
**ジアルジア症 2件** 推定感染地はともにインドで、推定感染経路はともに飲食物による経口感染/水系感染であった。  
**梅毒 4件** 早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症候梅毒2件であった。推定感染地は国内3件、ブラジル1件で、推定感染経路はすべて性的接触(同性間1件、異性間2件、性別不明1件)であった。  
**バンコマイシン耐性腸球菌 1件** VanCで、血液からの分離菌に検出された。感染経路は不明であった。  
**風しん 2件** 検査診断例1件、臨床診断例1件で、年齢は5歳未満1件、20歳代1件でともに女性。風しん含有ワクチン接種歴はともに不明であった。  
**麻しん 31件** 麻しん(検査診断例)17件、麻しん(臨床診断例)9件、修飾麻しん(検査診断例)5件で、年齢は10歳未満2件(うち5歳未満1件)、10歳代7件、20歳代14件、30歳代6件、40歳代1件、60歳代1件であった。麻しん含有ワクチン接種歴は無し11件、1回6件、2回1件、不明13件であった。修飾麻しん(検査診断例)40歳代の1件で脳炎の発症が報告されている。

## 定点把握対象疾患 報告数 2008年16週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		13週	14週	15週	16週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	12	6	11	4	0.03	150	150
	咽頭結膜熱	32	26	26	28	0.19		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	264	191	258	335	2.23		
	感染性胃腸炎	1,411	1,152	1,101	1,189	7.93		
	水痘	201	178	170	198	1.32		
	手足口病	7	4	7	8	0.05		
	伝染性紅斑	30	24	21	26	0.17		
	突発性発しん	84	92	115	116	0.77		
	百日咳	4	6	6	6	0.04		
	ヘルパンギーナ	2	1	5	3	0.02		
	流行性耳下腺炎	72	42	66	45	0.30		
	不明発しん症(注1)	5	9	16	13	0.09		
	MCLS(川崎病)(注1)	3	2	4	3	0.02		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	233	121	112	141	0.49	288	290
眼科	急性出血性結膜炎	1	1	2	3	0.08	38	39
	流行性角結膜炎	13	12	7	16	0.42		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	0	0	0	4	0.17	24	24
	無菌性髄膜炎	0	1	0	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	7	3	5	5	0.21		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0.00		
2008/4/24集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

# 風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

### (定点把握対象疾患のコメント)

- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微増した。最近3～4週間は過去5年平均の同時期と比べ、やや高いレベルで推移している。
- ・百日咳の定点当たり報告数は、最近3週間はほぼ同じ値で推移しており、過去5年平均の同時期と比較して高いレベルにある。患者実数は6人で、うち3人が20歳以上である。
- ・細菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加した。今後の推移に注意が必要である。

### (定点医療機関からのコメント)

みなと保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:38名のうち 3名からロタウイルス、1名からアデノウイルスが検出された。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年16週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月				3	1			1		
～11か月		3	1	25	3			19		
1歳		6	3	46	9			14		
2歳			2	29	17		1	3		
3歳		3	7	44	13	1	1			
4歳		4	22	43	10			1		
5歳			13	37	3	1	2			
6歳		1	18	22						
7歳			14	38						
8歳		1	8	24			2			
9歳		1	3	14			1			
10～14歳			7	36	4		2			
15～19歳			2	12					1	
20～29歳			3	54					3	
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計		19	103	427	60	2	9	38	4	
先週比	-6	-7	-87	-724	-117	-2	-15	-54	-2	-1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月				1		
～11か月	1			1		
1歳	2	2		8		
2歳	3	2		3		
3歳		1		11		
4歳	2	1		3		
5歳	1			4		
6歳	4			2		
7歳	2			3		
8歳	3			1		
9歳				2		
10～14歳	1			2		
15～19歳		1		5		
20～29歳	2			10	1	1
30～39歳				11	1	
40～49歳				2		2
50～59歳						
60～69歳				1	1	
70～79歳						
80歳以上						
合計	21	7		70	3	3
先週比	-21	-2	-1	-51	2	-9

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

### 全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2008年16週

	風しん	麻しん
0歳		1
1歳		
2歳	1	
3歳		
4歳		
5歳		1
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		3
15～19歳		4
20～29歳	1	14
30～39歳		6
40～49歳		1
50～59歳		
60～69歳		1
70～79歳		
80歳以上		
合計	2	31

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年16週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	3			6	1					
中央区			1	12	4	1		2		
みなと		5	22	77	11			2		1
新宿区			5	25	10			2		1
文京			7	11	5			2		
台東			12	14	3		3	1		
墨田区			6	17	2		1	4		
江東区			6	65	15		1	6		
品川区			14	63	7					
目黒区			2	12	3		2	2		
大田区		13	24	77	12		1	6	3	
世田谷		1	10	66	6		1	3		
渋谷区			2	16	2			2		
中野区			13	76	18	3		8		
杉並			6	60	2			2		
池袋			1	14	3			3		
北区		2		26	6			4		
荒川区			3	23	4			2		
板橋区			2	19	3			2	1	
練馬区			11	33	4			7		
足立			12	43	8	1	1	3		
葛飾区			9	16	3			2		
江戸川		3	20	41	5	1	1	6		
八王子市			40	98	20	1	7	8	1	1
西多摩			10	18	2			3	1	
南多摩			15	33	4		1	4		
町田			48	77	4	1	3	10		
多摩立川			3	27	1					
多摩府中	1		4	55	24		2	7		
多摩小平		4	27	69	6		2	13		
島しょ										
東京都合計	4	28	335	1,189	198	8	26	116	6	3

全数把握対象疾患  
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】2008年16週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	2			4		
中央区	1					
みなと	1			5		
新宿区	3	1	1	1		2
文京				5		2
台東	2					
墨田区		1				
江東区	1	1		1		2
品川区				2		
目黒区						1
大田区	2	4		11		
世田谷	3			6		
渋谷区				3		
中野区	1			2		
杉並				3		
池袋	1			7		
北区	2	1		1		
荒川区	4	1		1		2
板橋区		1		2		
練馬区	2			2		1
足立	5				3	
葛飾区	1			1		
江戸川	1			30		
八王子市	7	3		4		1
西多摩	1			1		
南多摩	3			1		
町田				24		1
多摩立川	1			8		
多摩府中			1	1		
多摩小平	1		1	15		4
島しょ						

東京都合計	45	13	3	141	3	16
-------	----	----	---	-----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		2
新宿区		1
文京		3
台東		
墨田区		
江東区		4
品川区		
目黒区		2
大田区		1
世田谷		2
渋谷区		2
中野区		1
杉並		1
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		1
足立		
葛飾区		
江戸川		1
八王子市	2	2
西多摩		
南多摩		2
町田		2
多摩立川		1
多摩府中		3
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	2	31
-------	---	----

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】2008年16週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	0.75			1.50	0.25					
中央区			0.33	4.00	1.33	0.33		0.67		
みなと		0.83	3.67	12.83	1.83			0.33		0.17
新宿区			0.83	4.17	1.67			0.33		0.17
文京			2.33	3.67	1.67			0.67		
台東			4.00	4.67	1.00		1.00	0.33		
墨田区			2.00	5.67	0.67		0.33	1.33		
江東区			1.50	16.25	3.75		0.25	1.50		
品川区			2.33	10.50	1.17					
目黒区			0.67	4.00	1.00		0.67	0.67		
大田区		1.44	2.67	8.56	1.33		0.11	0.67	0.33	
世田谷		0.13	1.25	8.25	0.75		0.13	0.38		
渋谷区			0.50	4.00	0.50			0.50		
中野区			2.17	12.67	3.00	0.50		1.33		
杉並			1.00	10.00	0.33			0.33		
池袋			0.20	2.80	0.60			0.60		
北区		0.50		6.50	1.50			1.00		
荒川区			1.50	11.50	2.00			1.00		
板橋区			0.33	3.17	0.50			0.33	0.17	
練馬区			2.20	6.60	0.80			1.40		
足立			2.40	8.60	1.60	0.20	0.20	0.60		
葛飾区			2.25	4.00	0.75			0.50		
江戸川		0.60	4.00	8.20	1.00	0.20	0.20	1.20		
八王子市			10.00	24.50	5.00	0.25	1.75	2.00	0.25	0.25
西多摩										
南多摩			3.75	8.25	1.00		0.25	1.00		
町田			12.00	19.25	1.00	0.25	0.75	2.50		
多摩立川			0.50	4.50	0.17					
多摩府中	0.10		0.40	5.50	2.40		0.20	0.70		
多摩小平		0.67	4.50	11.50	1.00		0.33	2.17		
島しょ										
東京都	0.03	0.19	2.23	7.93	1.32	0.05	0.17	0.77	0.04	0.02

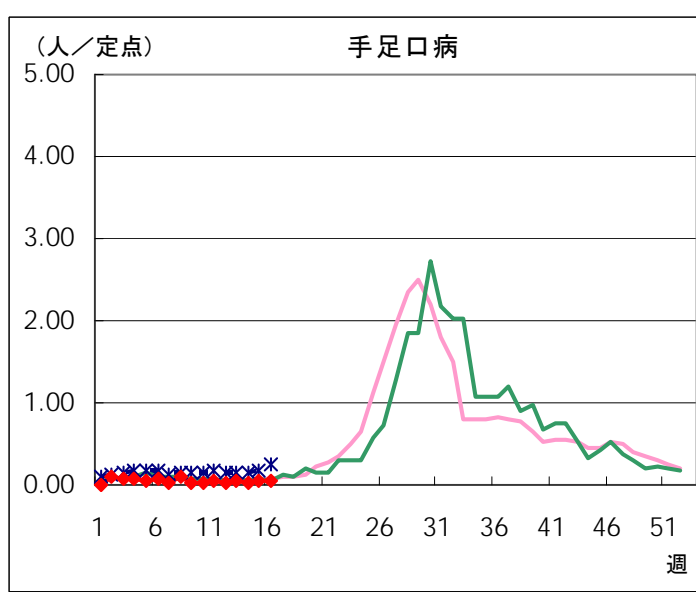
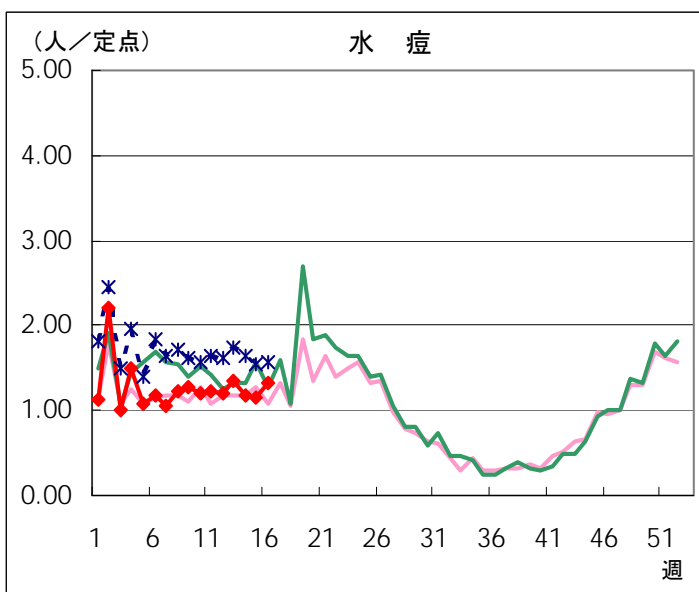
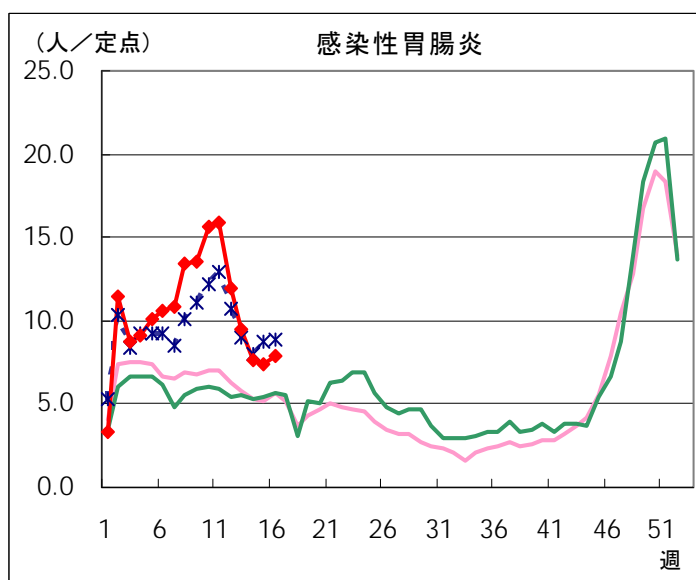
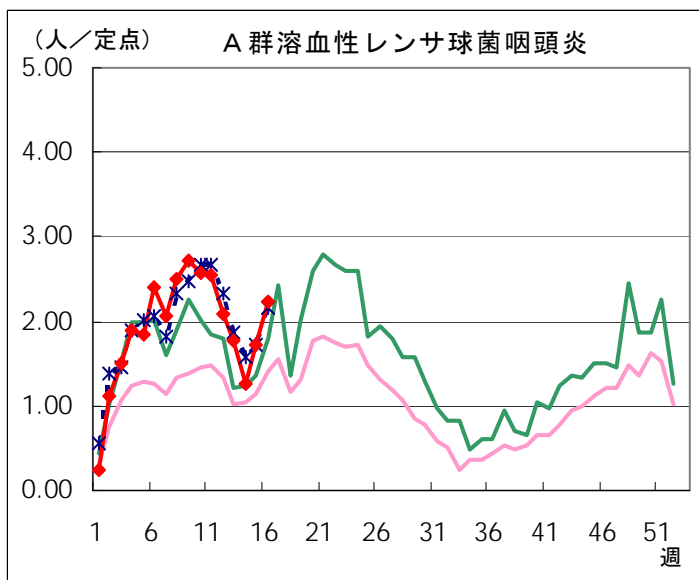
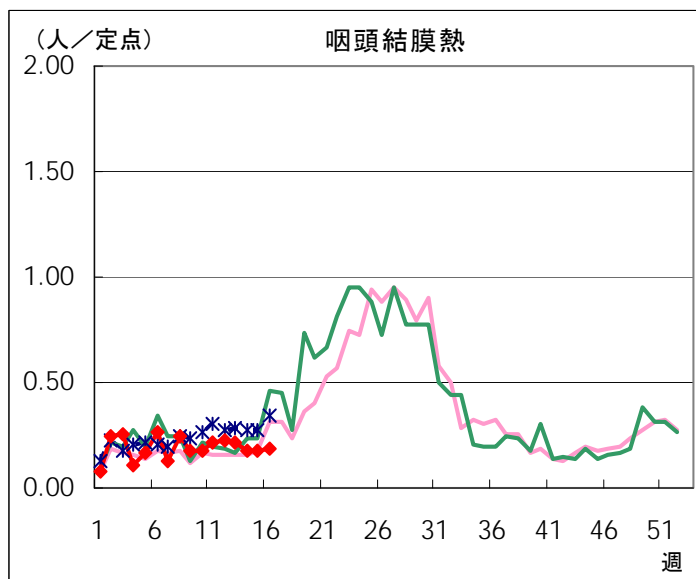
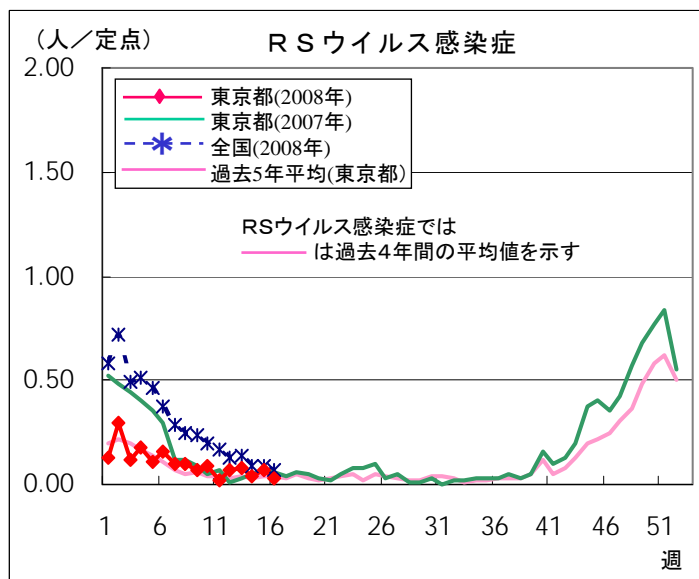


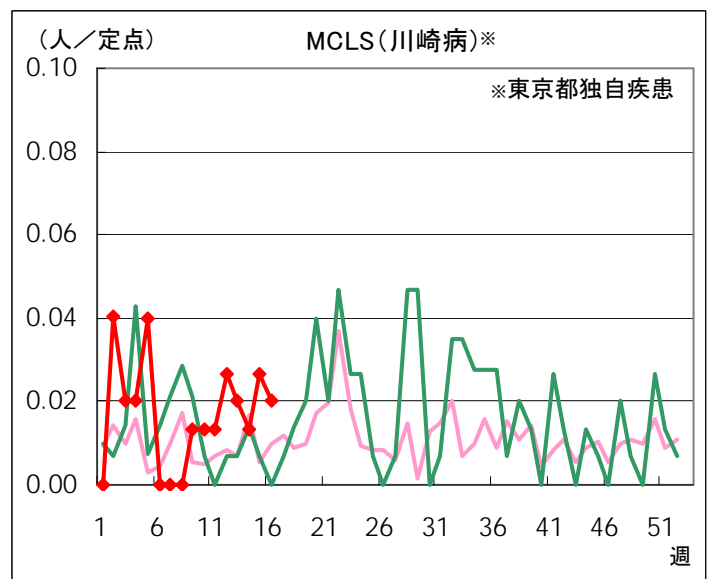
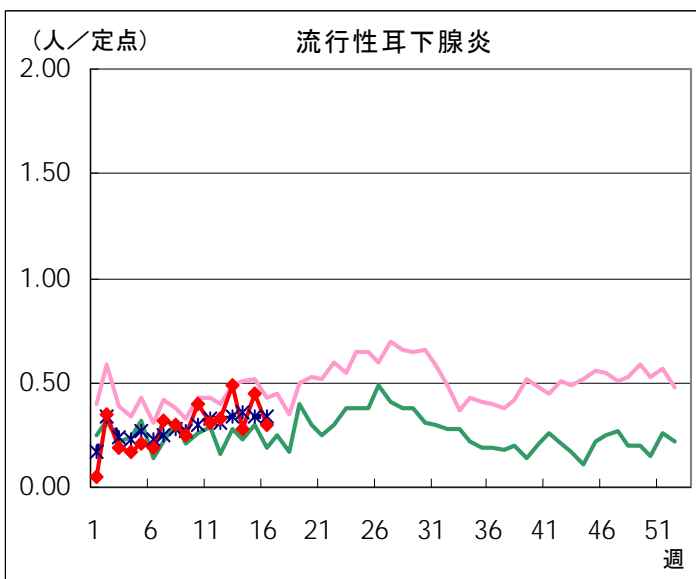
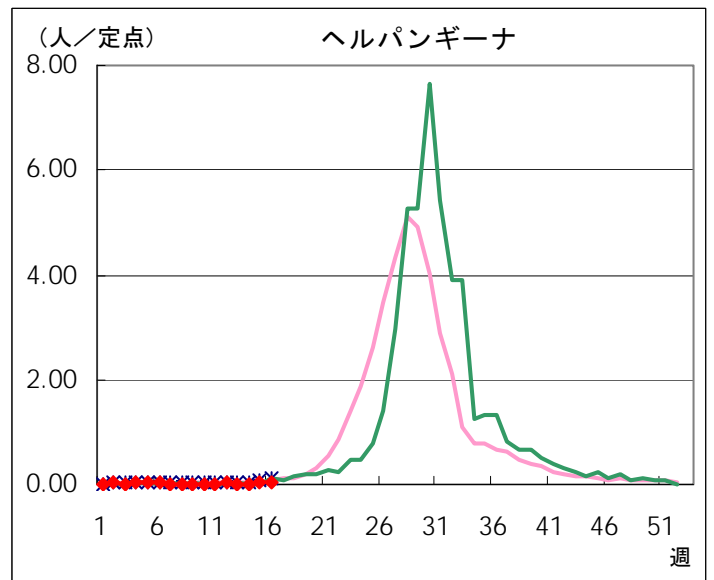
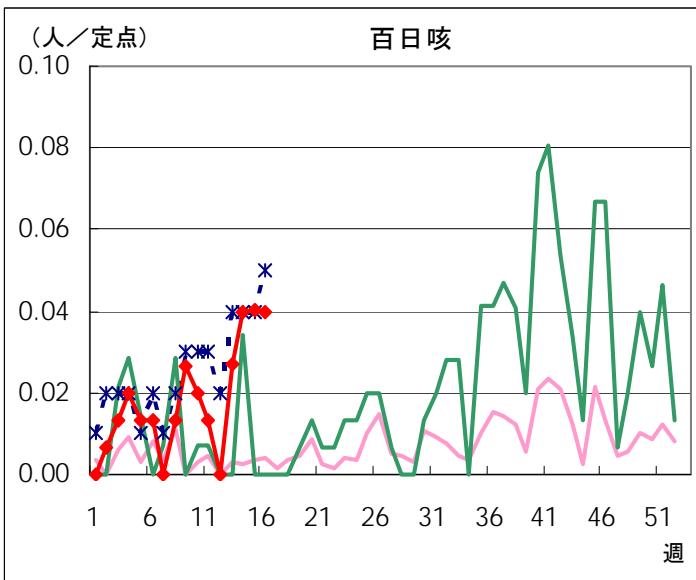
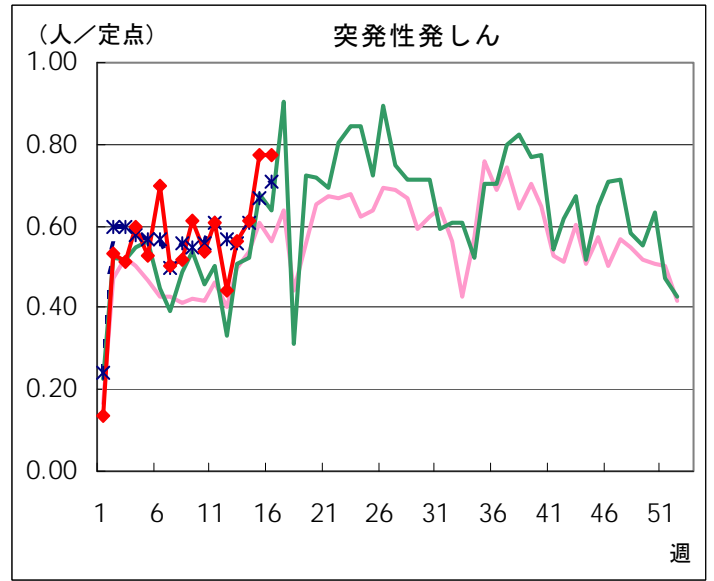
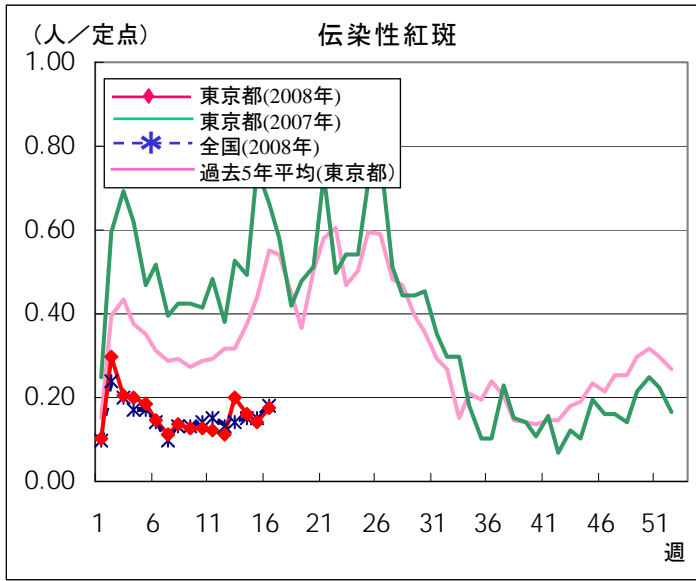
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田	0.50			0.80		
中央区	0.33					
みなと	0.17			0.63		
新宿区	0.50	0.17	0.17	0.11		1.00
文京				1.00		2.00
台東	0.67					
墨田区		0.33				
江東区	0.25	0.25		0.11		2.00
品川区				0.20		
目黒区						1.00
大田区	0.22	0.44		0.69		
世田谷	0.38			0.40		
渋谷区				0.50		
中野区	0.17			0.22		
杉並				0.25		
池袋	0.20			1.00		
北区	0.50	0.25		0.13		
荒川区	2.00	0.50		0.25		2.00
板橋区		0.17		0.17		
練馬区	0.40			0.17		0.50
足立	1.00				1.50	
葛飾区	0.25			0.11		
江戸川	0.20			2.50		
八王子市	1.75	0.75		0.40		0.50
西多摩				0.11		
南多摩	0.75			0.11		
町田				2.67		1.00
多摩立川	0.17			0.62		
多摩府中			0.10	0.05		
多摩小平	0.17		0.17	1.07		2.00
島しょ						

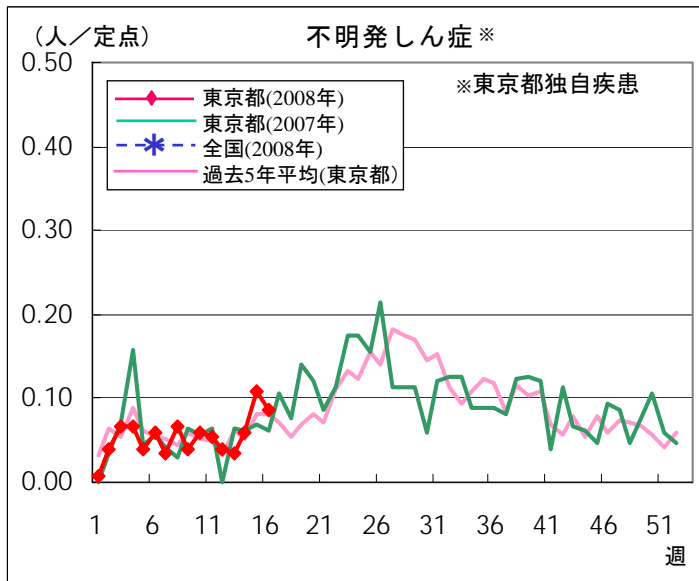
東京都	0.30	0.09	0.02	0.49	0.08	0.42
-----	------	------	------	------	------	------

# 定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年16週現在

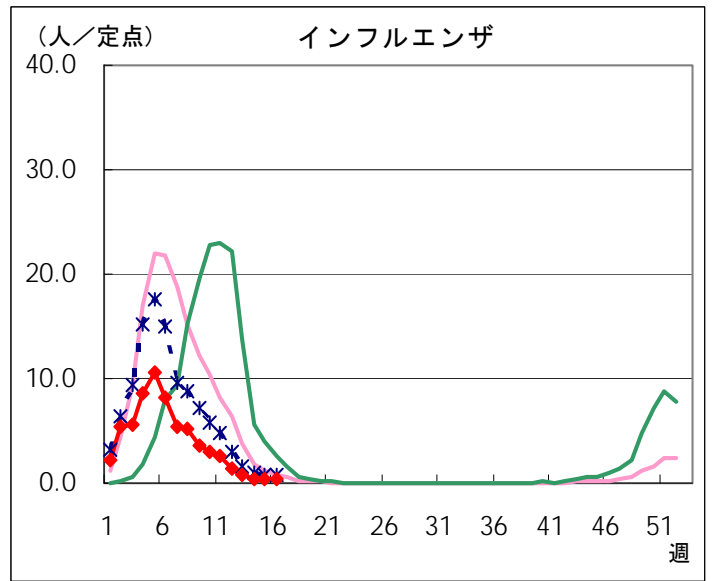
## ◆ 小児科定点



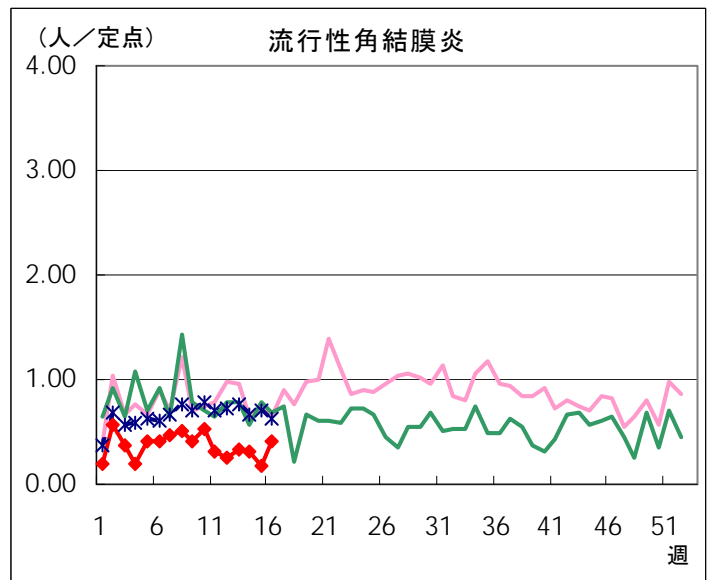
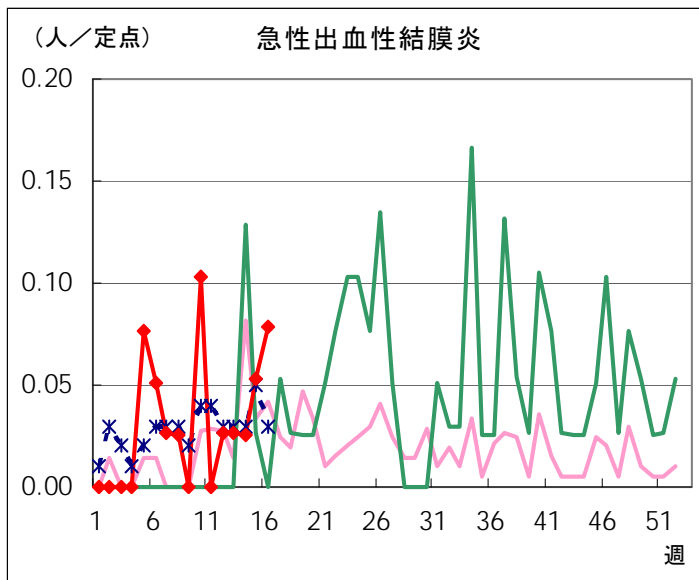




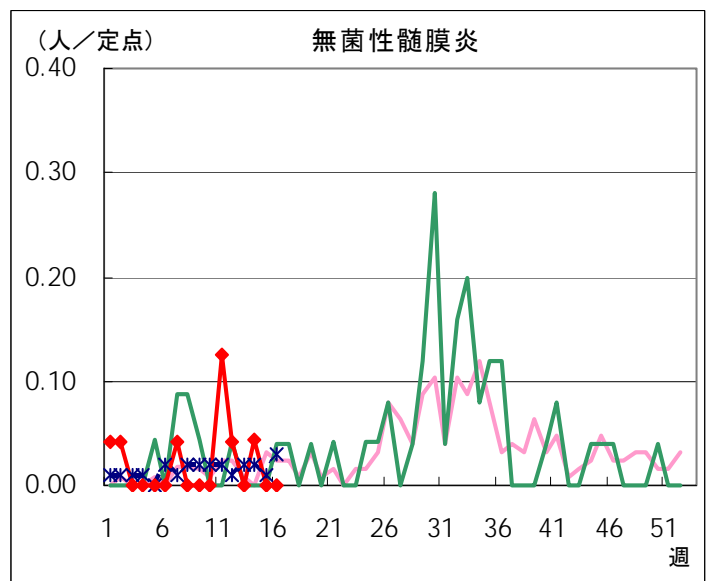
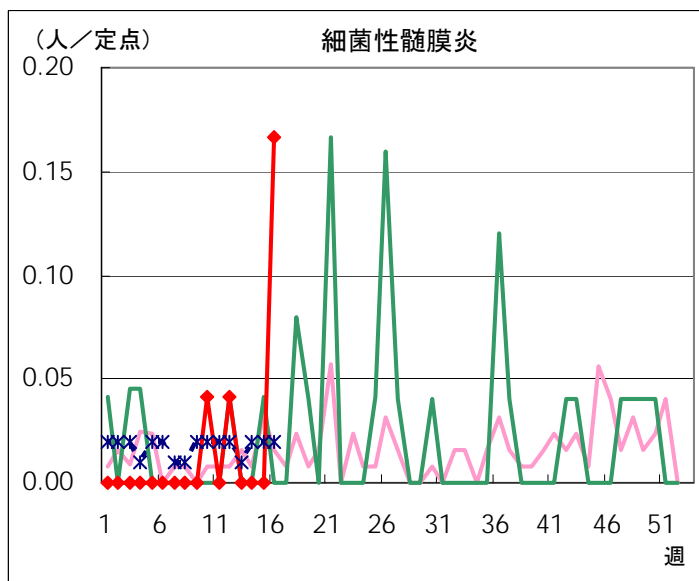
◆ インフルエンザ定点

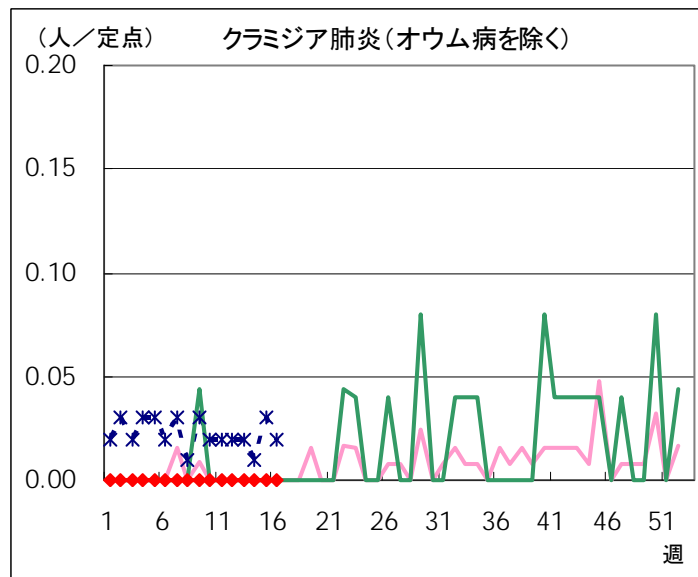
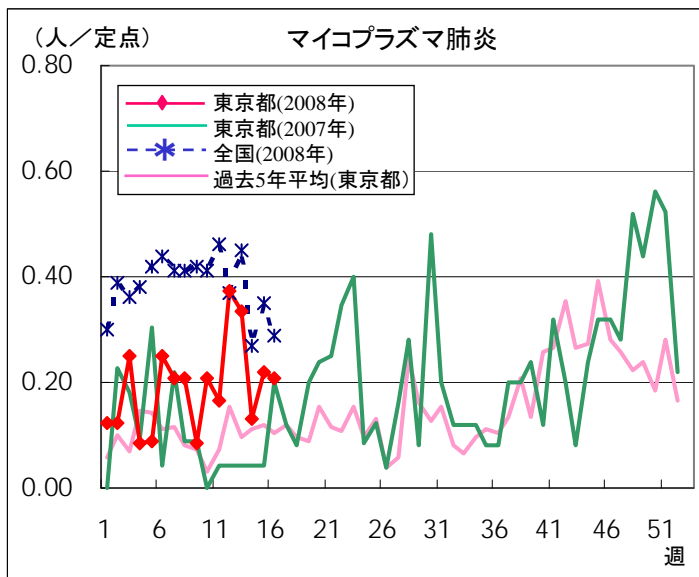


◆ 眼科定点

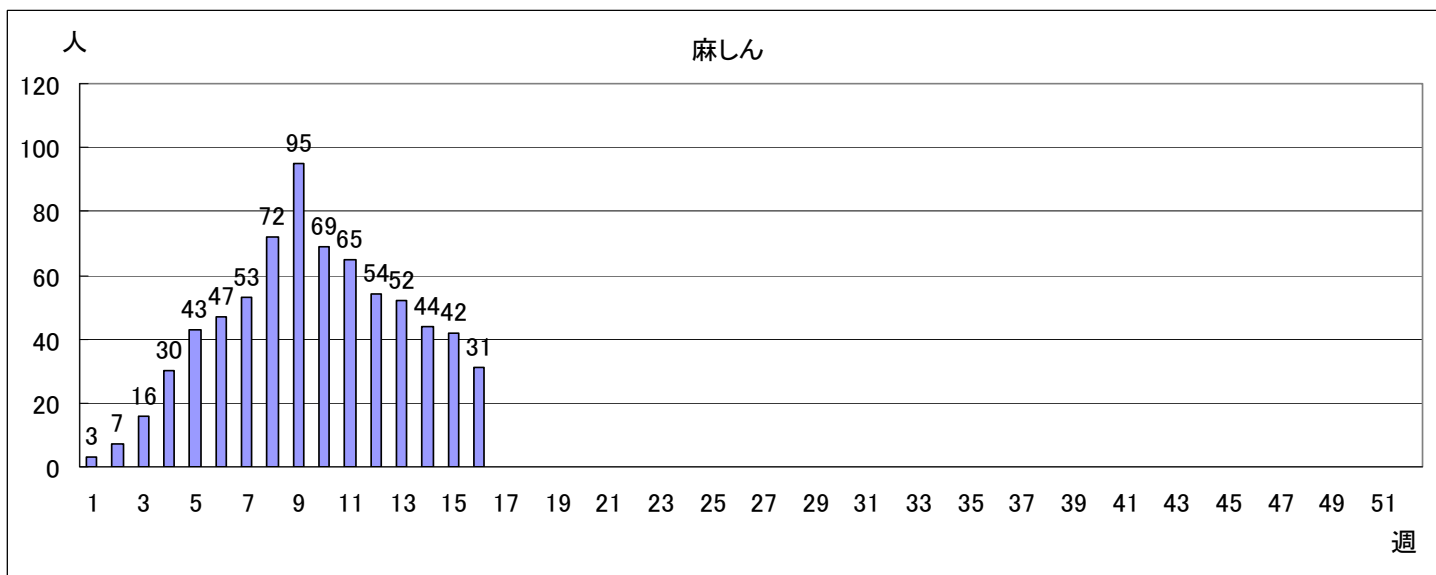


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年16週現在



## 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

\*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
3/26	RS感染症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、 ライノウイルス	遺伝子
3/27	肺炎、腸炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、 ライノウイルス、 サイトメガロウイルス	
			糞便	ロタウイルス	抗原
3/30	感染性胃腸炎	3M	糞便	ロタウイルス	
3/30	感染性胃腸炎	2	糞便	ロタウイルス	
3/31	胃腸炎、上気道炎、結膜炎	1	糞便	ロタウイルス	
4/1	感染性胃腸炎	2	糞便	ロタウイルス	
4/3	インフルエンザ	66	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	遺伝子
4/3	インフルエンザ	2	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
4/4	不明発しん症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、 ヒトヘルペスウイルス6型	
4/4	咽頭炎	5M	咽頭拭い液	メタニューモウイルス	
4/4	川崎病	記載無し	咽頭拭い液	ライノウイルス	
4/4	肺炎	7M	咽頭拭い液	メタニューモウイルス	
4/4	インフルエンザ	30	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
4/5	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
4/5	急性気管支炎	11M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
4/5	インフルエンザ	67	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
4/6	仮性クループ	1	咽頭拭い液	ライノウイルス、 パラインフルエンザウイルス1型	
4/7	ヘルペス性歯肉口内炎	2	咽頭拭い液	ライノウイルス、 単純ヘルペスウイルス	
4/7	急性細気管支炎	2M	咽頭拭い液	メタニューモウイルス	
4/8	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
4/8	溶連菌感染	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
4/8	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	メタニューモウイルス	遺伝子
4/8	インフルエンザ	15	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
4/9	急性胃腸炎	9M	糞便	ノロウイルス	
				ライノウイルス	
4/10	多形紅斑	11M	咽頭拭い液	ライノウイルス、 ヒトヘルペスウイルス6型	
4/10	急性細気管支炎	3M	咽頭拭い液	メタニューモウイルス	
4/10	急性咽頭気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、 ヒトヘルペスウイルス6型	
4/11	熱性けいれん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
4/11	扁桃炎	5	咽頭拭い液	EBウイルス	
4/11	急性胃腸炎	3	糞便	ロタウイルス	抗原

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
記載無し	劇症型溶血性レンサ球菌 感染症	77	菌株 〔血液、壊死 軟部組織由来〕	A群溶血性レンサ球菌	分離培養

\* 13週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

## 病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		8	9	10	11	12	13	14	15
ウイルス	アデノウイルス	2	2	2	7	3	5	13	4
	ライノウイルス	2	1	4	6	1	2	2	8
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	1	1			1			
	単純ヘルペスウイルス					1	1		1
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	2	1	1	3		3	2	7
	EBウイルス	1			2	1		2	1
	サイトメガロウイルス				1			1	1
	ムンプスウイルス	1			2		1	1	
	麻疹ウイルス						1	2	
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19		1						
	RSウイルス		1				4		
	ノロウイルス	2	2	1	1			1	1
	ロタウイルス	1	6	6	5	3	7		6
インフルエンザウイルスAH1	9	4	7	6	3			1	
インフルエンザウイルスAH3		1	2	8	3		3	4	
インフルエンザウイルスB		2	3	1		1			
デングウイルス									
その他のウイルス		4	2	6	3	10	4	6	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	その他の細菌								
その他の病原体									



病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年8週～15週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	97	27	63	106	24			4			1	12	5		5		96	
ウイルス	アデノウイルス	1	7	11	6	2		2				1	1				7	
	ライノウイルス	1	2	7	2							4					10	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	1			2													
	単純ヘルペスウイルス																	3
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7		2	2	1							3						11
	EBウイルス												2					5
	サイトメガロウイルス		1	1														1
	ムンプスウイルス													4				1
	麻疹しんウイルス		1													2		
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1						
	RSウイルス			5														
	ノロウイルス				7													1
	ロタウイルス				34													
インフルエンザウイルスAH1	29		1															
インフルエンザウイルスAH3	21																	
インフルエンザウイルスB	7																	
デングウイルス																		
その他のウイルス		6	26	3														
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌																	
その他の細菌																		
その他の病原体																		

## 月報告 定点把握対象疾患 報告数 2008年3月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	116	2.11	55	55
		女	119	2.16		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	45	0.82		
		女	43	0.78		
	尖圭コンジローマ	男	68	1.24		
		女	36	0.65		
	淋菌感染症	男	72	1.31		
		女	14	0.25		
	膣トリコモナス症*	男	0	0.00		
		女	15	0.27		
梅毒様疾患	男	6	0.11			
	女	3	0.05			
基 幹	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	27	1.13	25	25
		女	16	0.67		
	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	76	3.17		
		女	50	2.08		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	2	0.08		
		女	1	0.04		
2008/4/11集計						

\* 性感染症定点から報告される『膣トリコモナス症』とは、原虫の一種である膣トリコモナス(*Trichomonas vaginalis*)による疾患を指し、女性の膣、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

### (定点医療機関からのコメント)

足立区保健所管内定点医療機関

- ・ 今月はクラミジアが多かった。

## 月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2008年3月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	5		1	2		
20～24歳	16	5	9	10		1
25～29歳	20	12	12	18		1
30～34歳	26	3	14	19		1
35～39歳	19	8	14	8		
40～44歳	11	4	8	7		1
45～49歳	10	4	1	7		
50～54歳	3	5	3			
55～59歳	2	3	4	1		2
60～64歳	3		1			
65～69歳	1		1			
70歳～		1				
合計	116	45	68	72	0	6
先月数	103	48	45	68	0	4
増減数	13	-3	23	4	0	2

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	14	5	3	2		
20～24歳	34	7	10	6	4	
25～29歳	23	16	11	2	3	2
30～34歳	15	2	7	2	2	1
35～39歳	22	6	1	1		
40～44歳	9		1		1	
45～49歳	2	3	1		1	
50～54歳			2		2	
55～59歳		1				
60～64歳				1	1	
65～69歳		1				
70歳～		2			1	
合計	119	43	36	14	15	3
先月数	105	34	28	17	13	4
増減数	14	9	8	-3	2	-1

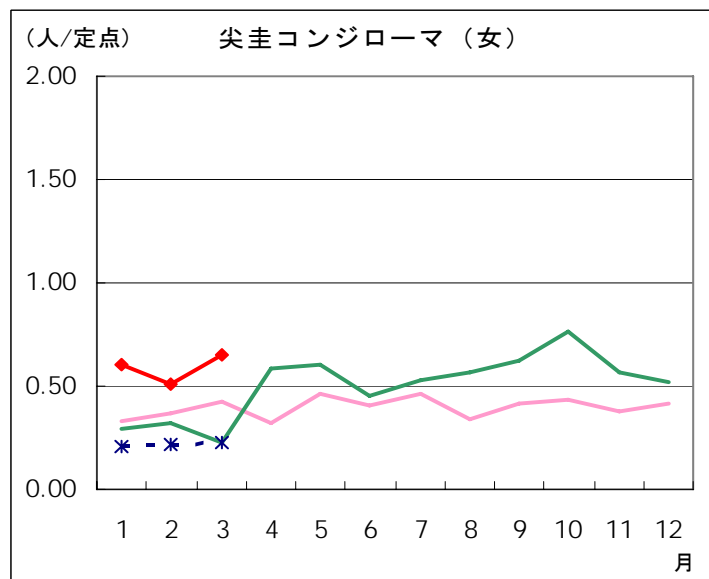
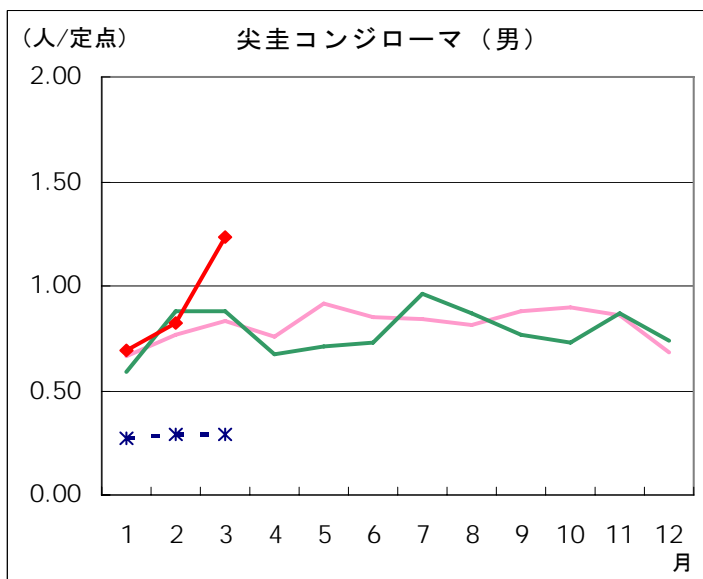
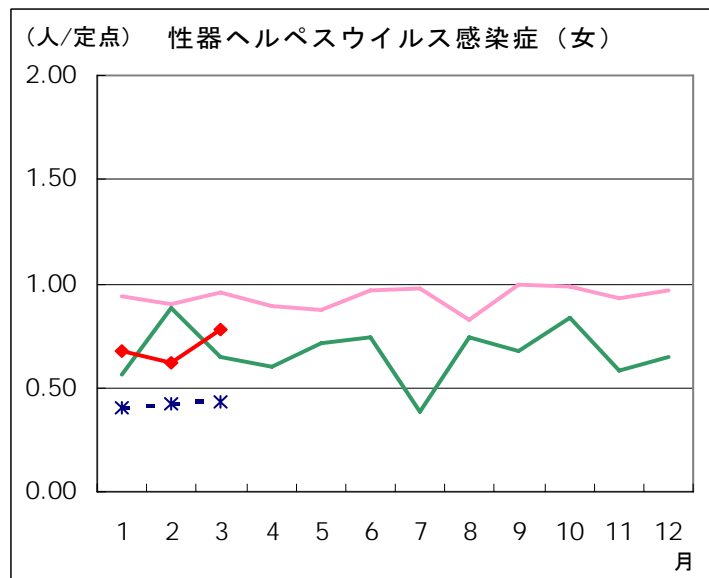
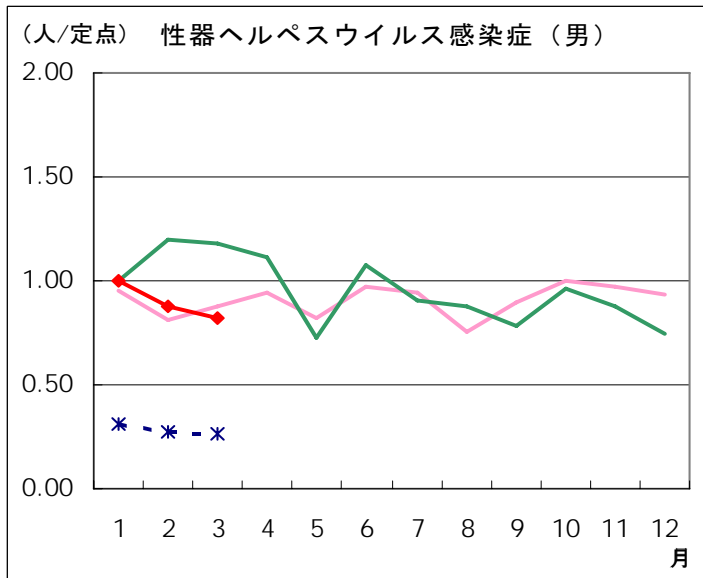
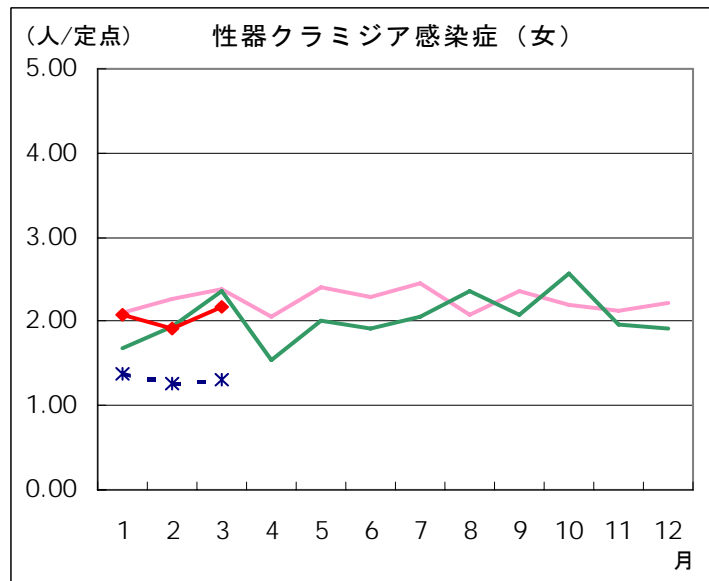
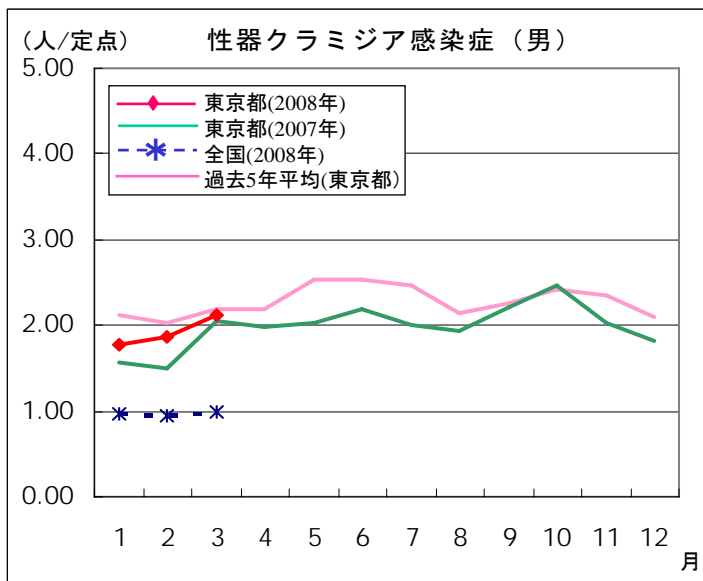
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2008年3月

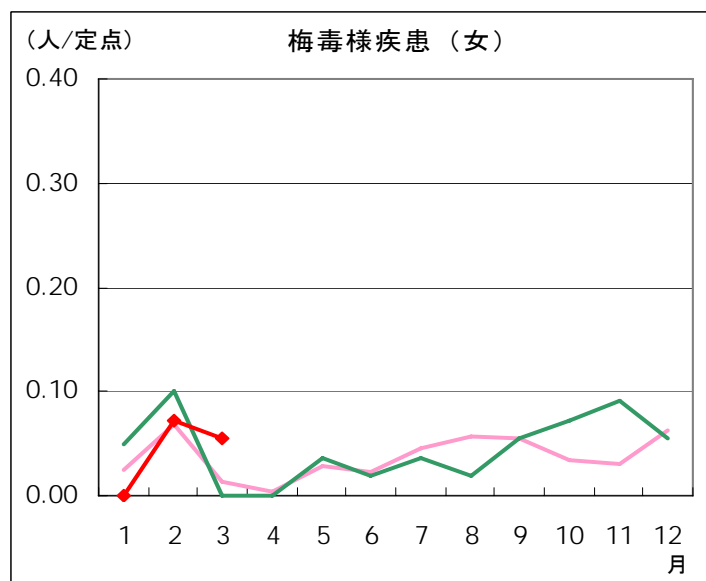
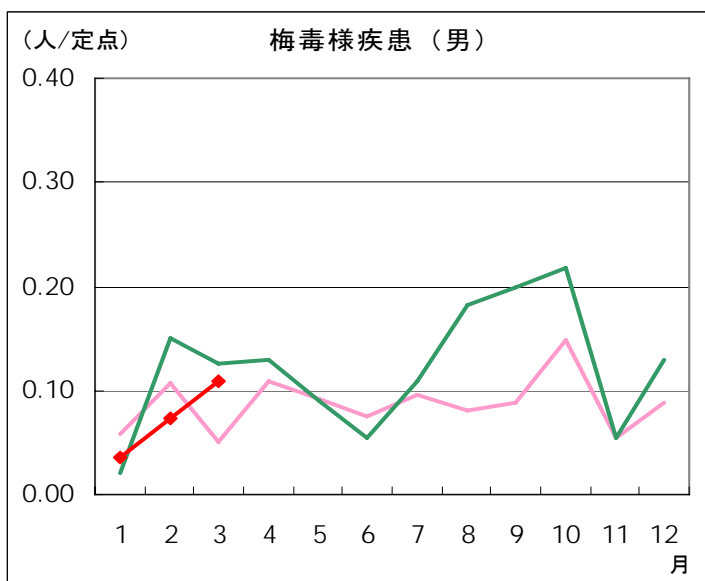
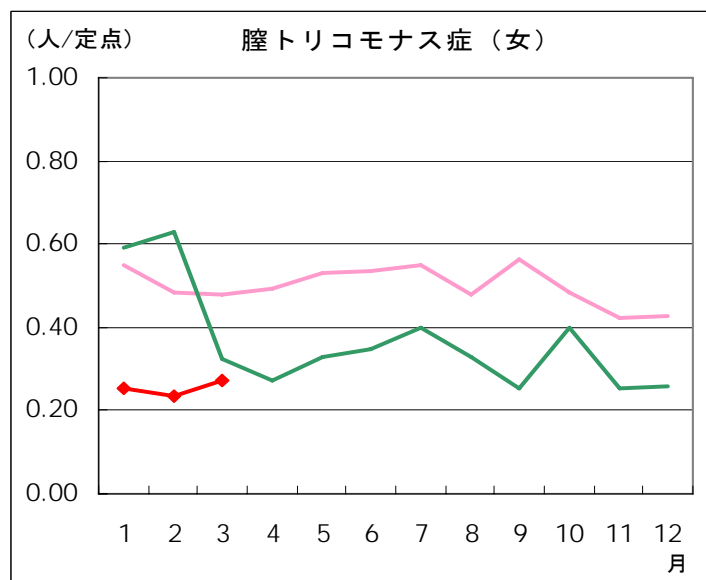
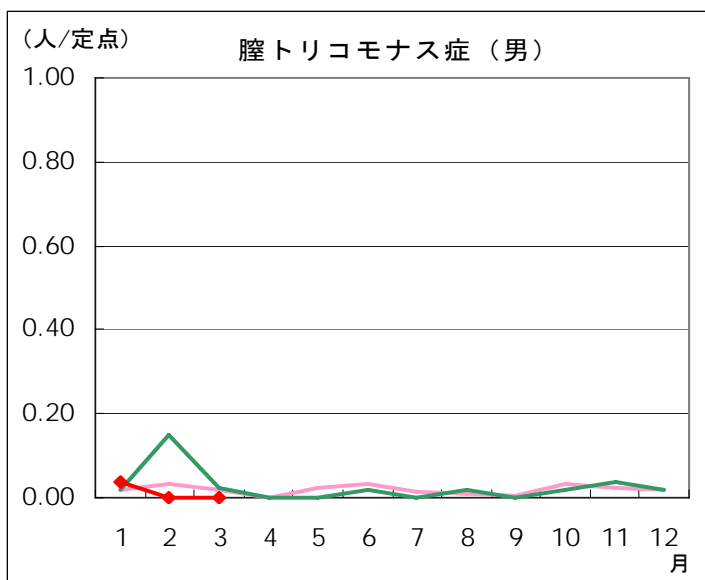
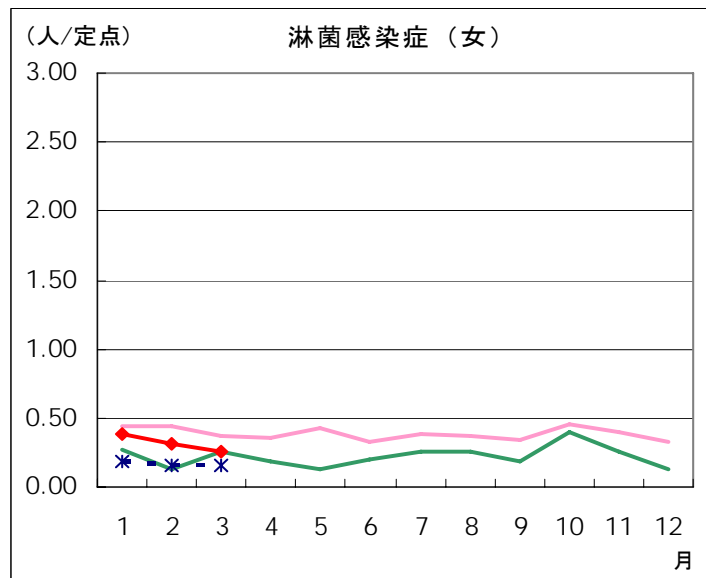
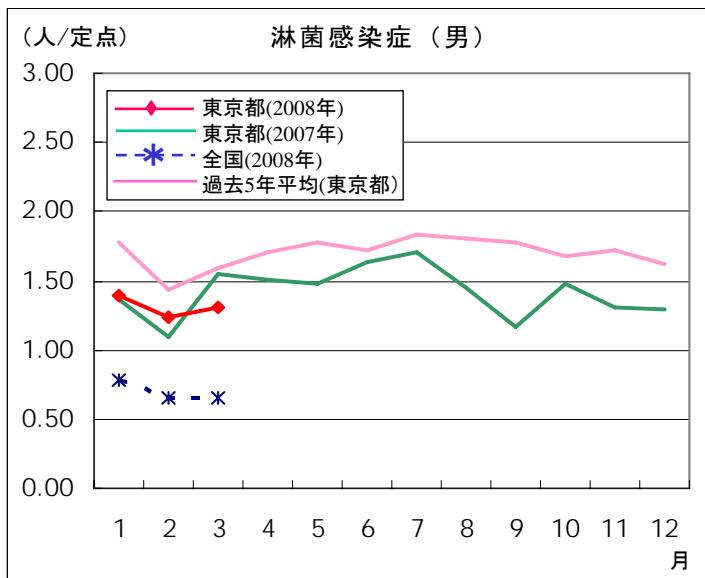
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	9	1	3	13		
中央区	3	8			2		
みなの	2	6	2				
新宿区	6	14	18	38	15		3
文京	1	6	2	1	3		
台東	3	1			2		
墨田区	2	5	1	2			
江東区	2	12	6	5	11		
品川区	1		1		2		
大田区	2	1			2		
渋谷区	5	12	2	1	2		
中野区	2	11			9		1
杉並	2	4	2				
池袋	3	12	6	11	5		
北区	1			1			
荒川区	1						
板橋区	2			1	2		
足立	2	6	2	1	2		
江戸川	2	4	2	4	1		2
八王子市	4						
町田	1						
多摩立川	2						
多摩府中	3	5			1		
多摩小平	1						
合 計	55	116	45	68	72		6
定点当たり		2.11	0.82	1.24	1.31		0.11

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	1			1		
中央区	3	2					
みなの	2	13	4	2	1	1	
新宿区	6	11	17	8	1		
文京	1						
台東	3	15	4	2	4	1	
墨田区	2	2		1			
江東区	2	1					
品川区	1						
大田区	2	2					
渋谷区	5	3	6	13			
中野区	2	1			2	2	
杉並	2						
池袋	3	9	1	3	1	5	
北区	1						
荒川区	1	4		2			
板橋区	2	10	1	1		2	2
足立	2						
江戸川	2	6	5			1	1
八王子市	4	23	3		2	1	
町田	1					1	
多摩立川	2	16	2	4	2	1	
多摩府中	3						
多摩小平	1						
合 計	55	119	43	36	14	15	3
定点当たり		2.16	0.78	0.65	0.25	0.27	0.05

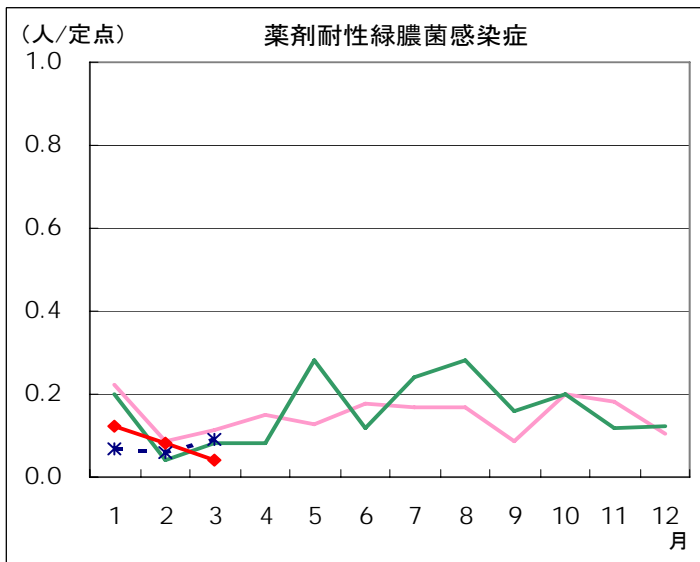
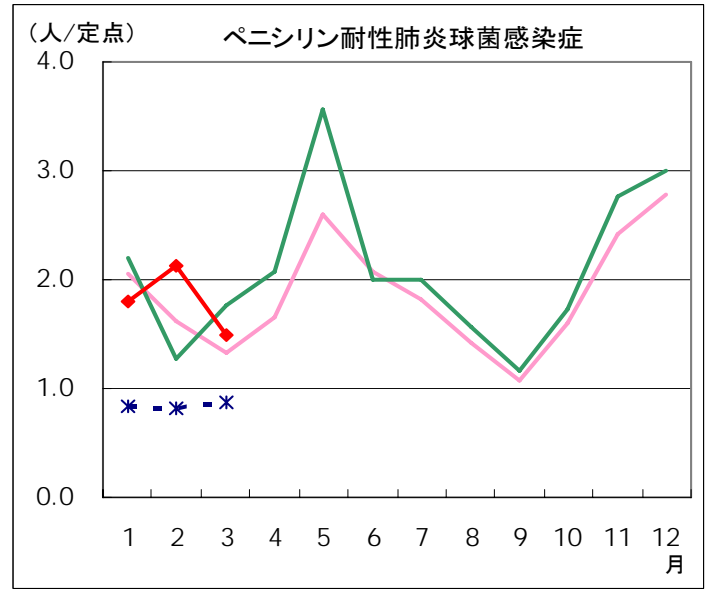
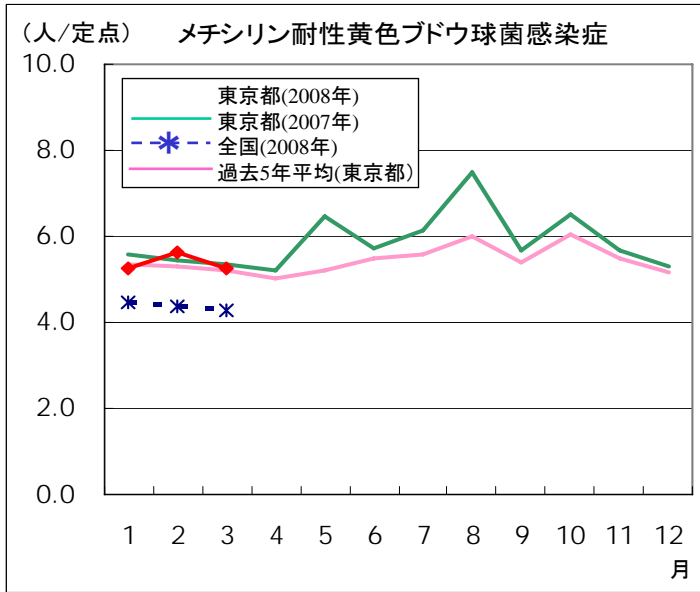
# 月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2008年3月現在

## ◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



## 月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

\*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
3/4	クラミジア性尿道炎	26	男	尿	淋菌	遺伝子・分離
3/4	陰茎コンジローマ	42	男	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス31型	遺伝子
3/6	陰茎コンジローマ	56	男	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス6型	遺伝子
3/6	陰茎コンジローマ	24	男	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス11型	遺伝子
3/7	異形成	38	女	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス52型	遺伝子
3/7	異形成	38	女	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス52型	遺伝子
3/10	尿道炎	34	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/10	淋菌性尿道炎	44	男	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	クラミジア	遺伝子・分離
3/10	異形成	26	女	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス53型	遺伝子
3/10	異形成	26	女	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス53型	遺伝子
3/11	淋菌性尿道炎	42	男	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	クラミジア、淋菌	遺伝子
3/11	尿道炎	21	男	尿	クラミジア	遺伝子・分離
3/11	尖圭コンジローマ	38	男	皮膚病巣	ヒトパピローマウイルス6型	遺伝子
3/12	尿道炎	27	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/12	膻炎	30	女	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	ヒトパピローマウイルス16型	遺伝子
3/13	淋菌性尿道炎	36	男	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	クラミジア	遺伝子・分離
3/17	尿道炎	61	男	尿	淋菌	遺伝子・分離
3/17	陰茎ヘルペス	31	男	皮膚病巣	ヒト単純ヘルペスウイルス1型	遺伝子
3/18	非淋菌性尿道炎	20	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/18	尿道炎	65	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/18	尿道炎	24	男	尿	淋菌	遺伝子
3/18	カポジ水痘様発疹症(陰茎部)	27	男	皮膚病巣	ヒト単純ヘルペスウイルス2型	遺伝子
3/18	尖圭コンジローマ	39	男	皮膚病巣	ヒトパピローマウイルス11型	遺伝子



受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
3/21	尿道炎	27	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/21	性器クラミジア	20	男	尿	クラミジア	遺伝子
3/21	尿道炎	36	男	尿	淋菌	遺伝子
3/21	淋菌性尿道炎	30	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	クラミジア	遺伝子・ 分離
3/21	尖圭コンジローマ	31	男	コンジローマ部位	ヒトパピローマウイルス6型	遺伝子
3/24	淋菌性尿道炎	22	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	クラミジア、淋菌	遺伝子
3/25	淋菌性尿道炎	45	男	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	クラミジア	遺伝子・ 分離
3/27	尖圭コンジローマ	40	男	コンジローマ部位	ヒトパピローマウイルス6型	遺伝子
3/28	クラミジア頸管炎	18	女	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	クラミジア	遺伝子
3/28	骨盤内炎、クラミジア	40	女	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	クラミジア、カンジダ	遺伝子・ 分離
3/31	クラミジア	26	女	陰部尿道頸管擦過物 /分泌物	クラミジア	遺伝子

## 薬剤耐性緑膿菌感染症

薬剤耐性緑膿菌感染症は五類感染症の定点把握疾患である。緑膿菌はグラム陰性桿菌で水まわりなど生活環境中に広く常在するが、健常者には病原性を生じることは極めて稀な弱毒細菌である。本菌では特有な感染症状や病型はなく、高齢者や入院患者（悪性疾患の術後患者、院内肺炎など）が好発年令、対象で宿主の免疫力の低下に伴い、時に重篤な感染を引き起こし、いわゆる日和見感染や院内感染の原因となる。感染経路は保菌者や感染症の患者から介護者の手指や医療器具、日常品を介し、さまざまな経路で菌の伝播が起こる。

近年これまで緑膿菌に対して効果が期待されていたカルバペネム系薬、ニューキノロン系薬、アミノグリコシド系薬にも耐性を示す多剤耐性緑膿菌が分離されるようになった。イミペネムの MIC $\geq$ 16  $\mu$ g/ml 以上、アミカシンの MIC $\geq$ 32  $\mu$ g/ml 以上、シプロフロキサシンの MIC $\geq$ 4  $\mu$ g/ml 以上のすべてを満たす場合に、多剤耐性緑膿菌と定義されている。

要は、細菌培養で緑膿菌が検出されたら必ず薬剤感受性試験を施行することである。耐性緑膿菌感染症の治療は検査材料（喀痰、膿、尿、便、血液、腹水、胸水、髄液など）よりの分離株毎に抗菌薬感受性が異なることから、その結果を参考に抗菌薬を選択（初期治療から併用療法を考慮）するが、多剤耐性の場合には抗菌薬の選択に苦慮することが多く、有効とされる併用療法としてアミノグリコシド+ $\beta$ -ラクタム、ニューキノロン+ $\beta$ -ラクタム、ホスホマイシン+ $\beta$ -ラクタムなどがあげられている。

（文責 （財）性の健康医学財団 理事長 松田静治）